

# Ladies&Girls Topics

1

## 平成28年度 キヤノン ガールズ エイト 第14回JFA北海道ガールズ・エイト(U-12)サッカー大会報告

初秋の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より道北地区のサッカーの諸事業に対しまして、ご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、先月行われました上記大会の報告をいたします。以前は、選抜チームでも単独チームでもOK!という大会でしたが、3年前からトレセンの地区別対抗戦という形の大会となりました。

全道を札幌・道央・道南・道東・道北(旭川協会・道北協会・宗谷協会)の5地区に分け、原則として6年生を中心のチームであるということなので、5地区の6年生女子の登録人数によって各地区の出場チーム数が決められています。登録数の多い地区は2チーム出すことができますが、道北チームは今年も1チーム(18名まで)です。今回は道北協会から1名(名寄)と宗谷協会から2名(稚内・浜頓別)の3名が加わり、旭川協会の13名と合わせて16名で大会に参加しました。

また、参加するに当たって、チームに女性コーチ1名を入れること、女性審判又はユース審判(高校生審判)を帯同することなどが義務づけられていますが、今回は監督・コーチとも女性、そして帯同審判も女性と、ガールズ・エイトにはふさわしい陣容で参加することができました。

1. 期日 平成28年10月1日(土)~2日(日)

2. 会場 帯広の森球技場(帯広市南町南7線56番地7)

3. 参加者  
引率者 河原しおり(北海道女子トレセンコーチ道北担当)  
坂本葵(北海道女子トレセンGKコーチ)  
帯同審判 赤津美砂(旭川審判委員会ユース審判:旭川南高3年)

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 参加選手 | 1. ①三浦雪愛(ネイバーズ)          |
|      | 2. ②水口ゆいか(ネイバーズ)         |
|      | 3. ③押方彩佳(G B B)          |
|      | 4. ④江良ひより(G B B)         |
|      | 5. ⑤島森凜杏(ニース)            |
|      | 6. ⑥菊池萌雪(東五条サッカー少年団・美瑛)  |
|      | 7. ⑦河地恵里(中富良野サッカー少年団)    |
|      | 8. ⑧川本美羽(エスピーダ)          |
|      | 9. ⑨佐藤葉月(増毛サッカー少年団)      |
|      | 10. ⑩小笠原由衣(未広北サッカー少年団)   |
|      | 11. ⑪木谷優那(未広北サッカー少年団)    |
|      | 12. ⑫田邊結希(名寄ピアシリサッカー少年団) |
|      | 13. ⑬村元真心(永山サッカー少年団)     |
|      | 14. ⑭桂美聖(増毛サッカー少年団)      |
|      | 15. ⑮小熊羽菜(稚内・最北)         |
|      | 16. ⑯若山紗久良(浜頓別)          |

## 出場チームと試合結果

### 【グループ A】

- ☆札幌ガールズクリニックホワイト (札幌)
- ☆道央ブロックトレセン (道央)
- ☆道南 BTC U12 DX (道南)
- ☆道東トレセン (道東)

### 【グループ B】

- ★札幌ガールズクリニックレッド (札幌)
- ★道北トレセン U-12 (道北)
- ★道南 BTC U12 SP (道南) ·
- ★道東選抜 (道東)

1日目 (10/1) 予選リーグは2勝1敗、2位で2日目の決勝トーナメントに進みました。――

①道北トレセン 1—3 道南 SP  
(得点: 水口ゆいか)

②道北トレセン 5—0 札幌ガールズクリニック・レッド  
(得点: 江良ひより・佐藤葉月・木谷優那②・小笠原由衣)

③道北トレセン 4—2 道東選抜  
(得点: 佐藤葉月②・村元真心・押方彩佳)

2日目 (10/2) 決勝トーナメント

準決勝 道北トレセン 0—2 道央トレセン

3位決定戦 道北トレセン 0—8 道南 SP

最終的には4位という成績でした。他の地域の選手達とくらべると個の力の差は大きく、その一つに道北の選手の「コンタクトプレー」の弱さが目立ちました。「絶対、点数を取られたくない!」「絶対、点数を取ってやる!」「絶対、1対1には負けない!」という強い気持ちはプレーに表れるものです。自分のボールは簡単に取られ、そして、相手のボールは取れず、最後は跳ね飛ばされる。そんな場面が多々見られました。やはり女子といえども、「戦う」という気持ちは絶対必要です。

力の差の二つ目は、サッカーの基本の「トラップ」「ドリブル」「パス」に目的がないということです。どこにどのようなトラップをするのか。何のためのドリブルなのか、パスなのか。それは、技術が劣っていることもあるだろうし、周りを見てないこともあります。

ただ、これらはすぐに身に付くものではなく、そして、身に付かないものでもありません。全ては、個の意識の強さにかかっています。今回の遠征で、言わされたことや感じたこと、やってみたことなど、すぐに実践に移すことが大事です。少年団の練習に意識を持って取り組み、自分一人でもやり続けるなど、個の強い意識が大切です。今後、それに期待したいと思います。ちなみに、好き嫌いをしないでたくさん食べる!と言うことも、すぐに実践できることの一つです。今大会の遠征で得られた経験をもとに、今後の自チームでの活躍を大いに期待しています。

尚、応援に来られた保護者の方々には、遠いところ大変ご苦労様でした。

今回の遠征終了にあたり、選手ならびにチーム関係者・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。今後もよろしくお願い致します。

(女子委員会委員長: 鈴木康宏)